成器地区　地域づくり懇談会　　議事録

１　日　時　平成２６年１１月１１日（火）　１９：００～１９：５０
２　会　場　成器地区公民館
３　出席者　地元出席者　　１４名
市側出席者　　１６名
深澤市長、羽場副市長、木下教育長、河井総務部長、田中企画推進部長、藤井都市整備部長、下田健康・子育て推進局長、久野新市域振興監、高橋秘書課長
＜国府町総合支所＞安本支所長、山本副支所長、加藤市民福祉課長、前田産業建設課長
＜事務局＞馬場協働推進課長（司会）、酒本協働推進課主任、田中協働推進課主事

４　地域の重要課題について

１　いきいき成器保育園の雨漏り対策について

＜地域課題＞

いきいき成器保育園は、平成２０年４月の開園以来７年目を迎え、成器地区の豊かな環境を活かしながら、地域の皆さんの支援のもとに特色ある里山保育を実施しており、現在１０名を超える園児が在園しております。

平成２７年度からは、入園予定の園児が１０数名になるものと見込まれ、鳥取市の森の保育園として、安定した運営を図る上での大きな課題をクリアできる状況になってまいりました。

その一方で、園舎は築３０年を超えているため各所に老朽化が目立っております。特にここ数年、教室内の雨漏りがしばしば見られ、園児の保育上、また園舎の安全上も極めて危惧される状況となっております。

このことについては、成器地区自治会長会として機会あるごとに鳥取市に要望し、実情は理解していただいているものと思っておりますが、今後の具体的な対応方法について、鳥取市としての考え方をお聞かせください。

＜担当部局の所見等＞

【健康・子育て推進局】

いきいき成器保育園の施設管理については、本市と地元との協議により開園以来これまで、修繕等はすべて地元で行っていただき、必要に応じて原材料などを市で支給させていただいてきた経過があります。しかしながら老朽化が進み、教室等への雨漏りが発生していることは現地で確認をさせていただいています。

本市は、市有建築物の管理等のあり方について検討しており、修繕が必要な範囲や修繕方法、経費などについて協議させていただきたいと考えています。

（健康・子育て推進局長）

保育園の修繕については地元でお願いするということで、市としては原材料の支給等により対応をさせていただいています。このたびは雨漏りがしているということですので、もう少し現地を詳しく調査し、どのような修繕が必要なのか確認した上で、修繕方法や必要経費等について園長先生等と協議をさせていただきたいと考えています。

（地元意見）

いきいき成器保育園を開設した当時は、今のように園児が１０名を超えるとは夢にも思いませんでした。多くの方々のご支援や、県や市から財政的な援助も含めた支援をいただいたからこそ、今日があると考えています。本当に頑張ってよかったと思っています。

最近では、市街地の近くにお住まいの方も、お問い合わせいただいたり見学にお越しいただいたりしています。また、いろいろな補助制度を活用して里山保育をアピールしていますが、山の中に出かけて行くという事業に関して活動を聞かせてほしいと林野庁から話があり、１１月２６日には、林野庁から委託を受けた長野県の経済研修所がお越しになる予定です。私達の取り組みが全国的に広がりつつあると感じています。鳥取は住みやすく子育ての環境としても適しているとして、この保育園の存在がさまざまな方面から注目されアピールされているとも聞いていますので、ぜひ、たくさんの子ども達や保護者の皆さんに関わってみていただきたいと思います。

園舎に関しては、現物支給していただき、地域の運営協議会や地元の応援隊の皆さんで壁を塗り直したという経緯もありますが、経年劣化により雨漏りがしています。今は職員が知恵を絞り、雨が子ども達の荷物や畳の上に落ちないよう、雨水をブルーシートでバケツまで誘引するなどの涙ぐましい努力をしています。このような現状ですから、初めての方が視察に来られた時は、慌てることもあります。

成器には、国府町には、そして鳥取市には「いきいき成器保育園」があるのだ、ということを自信を持ってアピールしていただけるように、ぜひお力添えをお願いします。雨が漏るようでは、保護者が眉を曇らせるのではないかと思います。早い時期に対応を考えていただくようお願いします。

（深澤市長）

まずは、もう少し詳しく状況を調べさせていただくことが必要だと思いますので、なるべく早く確認させていただいて、どのような方法があるか皆様と一緒に検討させていただきたいと思います。

2　旧成器小学校の安全対策について

＜地域課題＞

旧成器小学校は、木造校舎の温もりを生かしながら成器地区の特色ある交流拠点の一つとして、アトリエや地区住民の利用スペースなどに活用されています。

この校舎は築５０年を超えておりますが、諸般の事情から耐震検査を実施しないことになっていると聞いております。

現在も木造校舎は日々利用されており、このままでは不測の事態が発生することも心配され、適切な対応が望まれるところです。（まちづくり・いきいき成器の会として、いかに対応すべきか苦慮しております。）

こうした状況を踏まえ、鳥取市として木造校舎の安全対策をどうするのか、また、万が一事故が発生した場合はどうするのか、考え方をお聞かせください。

＜担当部局の所見等＞

【教育委員会】

有利な特定財源を活用し改修するよう検討していましたが、必要な改修に向けて、方針を地域の方と早急に協議していきます。

（教育長）

旧成器小学校については、現在は地域でさまざまにご活用いただいています。これまでは、国の助成制度や有利な特定財源を活用して改修を検討していきたいとご説明していましたが、今後は必要な改修に向けて、方針を地域の皆様と早急に協議していきたいと考えています。この校舎のどこの部分をどう使用していくかというあたりを協議していただき、しっかりご検討ください。それによって、必要な改修や耐震補強などがいろいろ出てくると思います。

（地元意見）

何年か前に地区公民館などの耐震調査をされましたが、旧成器小学校は耐震性が低いことは分かっているから調査に費用をかけるのはもったいないということで、調査されませんでした。今現在、アトリエ小学校には毎日多くの方が来られて、それぞれの教室で活躍されています。だから今の状況がいつまでも続くというのでは、何かあった時に非常に困ります。地元も校舎の活用策を何年も考えており、今は殿ダムウォーキングの際の事務所として活用していますが、イベントなどの際に、耐震補強ができておらず安心できないような建物にお客様を誘導することはできません。早急に地元と話し合いの場を持っていただき、検討をお願いします。今の市の財政を考えて、膨大な費用がかかるようであれば決して無理なことを言うつもりはありませんが、話し合って良い方法が見つかればと思います。

（教育長）

今使用されている所もありますが、今後使い方を検討される所もあると思います。今後建物を使用されるにあたり、必要に応じて安全性を確保していきましょうということですので、繰り返しになりますが、しっかりとご相談させていただければと思います。

５　市政の課題等についての意見交換（フリートーク）

（地元意見）

旧成器小学校にはプールが残っており、中に水がたまったままになっています。何も維持管理がされていません。そのため、納涼祭や運動会などで地域の住民が集まる夏に、大量の蚊が発生しています。プールの水が蚊の養殖場と化しているのです。東京では、蚊が媒介する伝染病も発生しています。維持管理が全くなされていないということは、２７年度地区要望に出しました。

（深澤市長）

鳥取地域にも使用されていないプールが数か所あり、水がたまらないようにしている所もあります。蚊の発生場所になることがないよう、検討させていただきたいと思います。まずは実態を確認させていただきたいと思います。

＜担当課補足：教育総務課、教育委員会国府町分室＞

平成２７年２月に、プール内の水抜き及び清掃作業を実施しました。

今後は、排水バルブを撤去し開放状態にして、雨水がたまらないようにします。

（地元意見）

殿ダムの記念広場等が完成してイベント等が多く開催されるようになり、市道山崎橋から県道に至るバイパス道路の交通量が増えました。公園側はきれいなのですが、カーブ部分に非常に草がたくさん生えていて見通しが悪いです。草刈りをするなどの対策をお願いします。

（都市整備部長）

市道中河原殿線はバス路線でもありますし、殿ダム記念広場へのアクセス道路としても交通量が増加しています。ご指摘の区間は道路のカーブが大きいため、内側に草木が繁茂すると見通しが悪くなり、記念広場への進入の際に注意が必要です。このたびご要望を受けて草を刈りましたが、今後は、広場へ来られる方がますます多くなると見込まれますので、交通安全対策として適宜カーブ内側の除草を行っていきたいと思います。

（地元意見）

今年初めて開催した野外音楽祭は、まちづくり提案型事業に応募して採択になったものです。当日は、想定をはるかに超える方々に参加いただき盛大に開催することができまし

た。ダムが完成した後は、地域の活性化の一つとして記念広場を使った催し物を実施していこうと以前から考えていました。

ウォーキング大会は通算８回目、まちづくり協議会が始めて３回目の開催で定着してきたこともあり、今年は昨年のおよそ倍の４２５名の応募がありました。当日の参加者は３８５名ぐらいだったと思います。今年はダムの直下で開会式をしたこともあり、初めて来られた方々には非常に景色が良いと好評でした。来年もぜひ参加したいと言っていただいたりもしたので、今後も続けていかなければいけない事業だと思っています。

音楽祭については、当初１，０００人を目標に取り組み始めましたが、こちらも想定をはるかに超え、多くの方々にお越しいただきました。

音楽祭当日、ダム直下の駐車場は、桜の木が植えてある周辺部分も加えると４００台程度の自動車が駐車できますが、午前１０時半頃にはほぼ満車になりました。そこで、原石山中央広場を臨時駐車場としてシャトルバスによる送迎を行いましたが、非常に多くの経費がかかりました。来年以降もこれを続けていくとなると、相当な経費が必要になるのではないかと思います。これだけ多くの方々にお越しいただくためには交通手段の確保が必要ですので、来年はぜひとも予算を増額していただきたいです。

また、今年はイベント開催前にカーブ部分の草刈りをしていただきましたが、駐車場が全く足りませんので、できれば草を刈るだけでなくカーブ部分の残地をイベント時の駐車場として活用できるように検討していただきたいです。

（都市整備部長）

９月２１日に開催された殿ダム野外音楽祭は、協働推進課が交付している「市民まちづくり提案事業助成金」を活用し、いきいき成器の会の皆様自らが企画、立案されて実施されたとお聞きしています。殿ダム野外音楽祭は、平成２３年５月に取りまとめられた「殿ダム水源地域ビジョン」の推進につながる積極的な取り組みですので、予算措置については、事業の実施状況などを検証しながら検討していきたいと思っています。

駐車場については今後検討しなければならないと思いますが、カーブ部分ということもあり、草を刈ったとしても見通しそのものはあまり良くない所だと思われます。そのあたりも注意しながら検討すべきだと考えています。

＜担当課補足：道路課、国府町総合支所産業建設課＞

カーブ部分であり、視距を阻害したり、出入りが危険であるため、道路管理者が駐車可能なスペースとして整備、活用することは困難です。

ただし、イベント時の一時利用として、利用者が整備し安全対策を行ったうえで、道路使用許可を受けて利用することは可能です。

（地元意見）

殿ダム交流館が今年４月に完成し、ここでさまざまなイベントが開催されています。１０月上旬には、万葉ウォークラリーも開催されました。その際、成器地区で豚汁を振る舞ってほしいと依頼がありました。このウォークラリーは、今までは宮下地区や谷地区で開催されることが多かったため、そちらの地区の婦人会が豚汁を作っておられました。

殿ダム交流館には素晴らしい設備が整っていますが、学習館という位置づけのためか、調理設備が全くありません。ガスは使用してはいけないとのことでガスもなく、湯沸かし器はＩＨを使用しているようです。そのため、豚汁を作る時は、地区公民館で下ごしらえをし、交流館まで材料やプロパンガス、鍋を持って行きました。

もう完成している施設なので仕方ないかもしれませんが、調理設備があれば活用できる範囲も広がると思います。

（深澤市長）

殿ダム交流館の開館前には、どのような形で活用するか地域の皆様と一緒に検討させていただいた経緯はあったと思いますが、イベント時に調理等で活用されることは想定していなかったと思います。本日はご意見として伺い、将来何かの方法で対応が可能な状況がくればその時にということで、現時点ではご了解いただきたいと思います。

（地元意見）

交流館の職員によると、殿ダム交流館に来られたお客さんから、食事ができる所がないかとよく聞かれるそうです。この周辺には飲食店が全くありません。殿ダム交流館でパンを売ったりすることはできませんか。

（深澤市長）

殿ダム交流館は指定管理者制度による管理をお願いしています。指定管理者制度というのは、公共団体の施設を直接市が管理するより、民間団体に管理していただいた方が民間のノウハウを生かした幅広い活用ができ、経費の節減や市民サービスの向上にもつながるという利点があり、平成１８年から本格的に導入された制度です。そう考えれば、殿ダム交流館に限らず基本的には可能だと思いますが、今一度確認させていただきたいと思います。

（地元意見）

可能であれば、できれば来年度４月からでもスムーズに販売開始できるよう、管理者と打ち合わせを進めてほしいと思います。

＜担当課補足：都市環境課＞

殿ダム交流館は、殿ダム等に関する理解を深めるとともに、地域間交流の促進によって地域の活性化を図ることを目的に設置したもので、飲食物の提供や物販のための設備は備えていません。

当該施設での新たな物販等設置・管理運営については、

①施設の設置目的を達成するために不可欠と認められるもの

②施設本来の用途又は目的を妨げない範囲のもの

③利用者のサービス維持・向上に寄与すると期待されるもの

の３点を満たし、かつ指定管理者の業務範囲とすることが相応しい場合は、実施可能です。

また、物販等食品に関する営業については、食品衛生法で定める食品の種類に応じた営

業許可が必要（衛生面・管理面の基準に合致）となりますので、あらかじめ東部生活環境事務所と協議等を行い、申請することとなります。

これらのことを踏まえ、今後、利用状況や要望等を把握しながら、指定管理者並びに殿ダム水源地域活性化連絡会と、協議を進めていきたいと考えています。

なお、予約時に、昼食等のご相談をいただいた場合には、周辺飲食施設や扇の里弁当の紹介・斡旋を行っています。

（地元意見）

中山間地や里山地域に限らず、中心市街地でも少子高齢化や過疎化がどんどん進行している中、どこに活路を見出していくのかと思います。全市一斉に取り組むことは難しいと思うので、モデル地区を設定して成功事例を作ってはどうでしょうか。成器をモデル地区にしてください。この地区には殿ダムがあります。いきいき成器保育園があります。そしてアトリエ小学校と呼んでいる旧成器小学校もあります。他地区にはめったにない特徴があり、しかも市内の６１の地区公民館の中でスモールスリーと言われるほどコンパクトなエリアでありながら、非常にまとまりが良く元気です。

地域の人に頑張れと言うだけではなく、市が持っているノウハウを生かしながらモデル事業を進めていけば、それがますます地区の元気にもつながります。そして、成器ができるのなら自分の地区でもできるのではないかということで、他の地区にも広がっていくのではないでしょうか。

（深澤市長）

鳥取市は、合併により７６５ｋｍ^{2}の非常に広い市域を有するまちになりました。そのうち９２％が中山間地域であり、そこに人口の約半分の方が居住しておられます。そのため私は、中山間地域が活性化しなければ鳥取市の活性化にはつながらないと常々思っています。成器地区をモデル地区にということでなく、中山間地域全体でそれぞれの地域の特性や特徴を活かしたまちづくりを進めていただきたいと思いますし、市も一緒になって取り組むことにより地域の活性化が図られていくと思っています。今後も、皆様と一緒にまちづくりに取り組んでいきたいと思います。

（新市域振興監）

中山間地域の活性化については、国・県・市にさまざまな事業がありますが、「輝く中山間地域創出モデル事業」などを利用していただくと良いと思います。自分の地区をモデル地区に、というご要望は他地区からもいただくことがあります。例えば佐治町は、新市域の中では一番過疎化が進んでいますが、いろいろな取り組みを活発にしておられます。また、河原町西郷地区のむらづくり協議会も、いろいろな活動をされています。鹿野町では空き家の活用策に取り組まれており、全国的に有名になっています。

成器地区であれば、殿ダムイベントなどにより多くの人に来ていただけるようになれば環境整備を行うなど、それぞれ創意工夫をしていただきたいと思います。市役所企画推進部の新市域振興監や中山間地域振興課、あるいは国府町総合支所などにご相談ください。まずは、今ある事業を活用していただきたいと思います。もし事業で不足する部分があれ

ば、中山間地域振興課でも新たな施策を検討していますので、ご相談ください。
　特に、中山間地域振興課では、都会に住む方に鳥取市に移住定住をしていただきたいということで、いろいろな事業を検討しています。そして今では、退職された世代の方より３０代の方がより多く鳥取市に移住定住いただいているということもありますので、里山の良さをどんどん発信していただきたいと思っています。

（地元意見）
　市長が新しく就任し、庁舎問題も議会でスムーズに可決されると思っていましたが、否決して非常に残念な思いです。鳥取市の将来を見すえた市庁舎となると、やはり新築移転しかないだろうと思います。市議会選挙もあります。新しい議員が出たら、再び先の展望も開けないような状況になるのではないかと心配です。合併特例債が使える期限内に新庁舎が完成するようにしてください。

（深澤市長）
　市庁舎問題における正しい選択は、新築移転しかないと思っています。この考えは変わりません。
　理由の１つは財政面です。築５０年を経過して限界を迎えている現庁舎の耐震改修に数十億円を投資しても、無駄に終わると私は考えています。そして将来、やはり改修ではだめだったから新築をということになった時には、もはや合併特例債は使えません。耐震改修が無駄な投資に終わり、さらに有利な合併特例債も使えないという、２つの大きな負担が生じてしまいます。それは結果的に、何らかの形で市民の皆様に財政的なご負担をおかけするということです。そういうことがあってはならないと思います。
　もう１つの理由は耐震性です。現庁舎は、過去に２回の耐震調査を行いましたが、いずれも耐震性に問題ありという結果でした。ＩＳ値は０．６という数字が一つの目安となっていて、これを下回ると耐震性に問題があるということですが、現庁舎のＩＳ値は０．２です。０．２という数値が出ている建物は、通常は出入りを禁止しなければならないほど非常に危険であるということを意味します。そのため、耐震改修であれ新築であれ、早急に結論を出さなければならない状況です。
　この財政面と耐震性の２つの理由から、庁舎問題は速やかに解決を図らなければならないのです。
　平成２１年には、庁舎問題を特別に考えて議論していくための「庁舎特別委員会」が議会に設置されました。この会では合計１０７回の委員会が開催され、９月２６日の特別委員会において「新築移転すべき」という結論を出されました。そして、本会議でも委員長報告をされました。それを受けて、同日私は追加提案を行いましたが、残念ながら１０月６日の採決では０．５人ほど足りず否決されました。反対した議員から他にどのような案が良いかという対案が示されることもありません。だから、この問題が何ら解決に至らないわけです。
　しかし、もういいかげん決着させなければいけないのではないかと、市民の皆様から議会に批判の声が届いている状況です。解決を図るためには位置条例が可決されなければいけませんので、今後も引き続き、なぜ新築移転が正しい選択なのかということを説明して

ご理解いただく努力を重ねていきたいと思っています。

もう待ったなしです。現在の市議会の任期は１２月１６日までですので、任期中に臨時議会を招集した上で再提案し可決をいただくという選択肢もありますし、１２月１７日からスタートする新しい議会で提案するという選択肢もあります。

いずれにしても状況を見極め、できるだけ早く正しい形で問題の解決を図っていきたいと考えています。

６　市長あいさつ

非常に限られた時間ではありましたが、皆様からいろいろなご意見をいただきましたことに、心から感謝申し上げたいと思います。本日の懇談会にあたっては、事前に２つの課題をいただいておりました。我々としても皆様のご意見をしっかり伺い、精いっぱい対応させていただきたいと考えています。

また、最後に市庁舎に関するご質問をいただきました。フリートークでもご意見があったように、鳥取市には中山間地域の振興など、待ったなしの課題が非常にたくさんあります。私は、庁舎問題を正しい形で解決させ、こういった市政の課題に全力で取り組んでいかなければならないと考えています。そして、将来を見すえて新しい鳥取市を築き上げ、自信と誇りが持てる、そして住んで良かったと思える市にしていかなければならないと思っています。職員一同、今後も皆様と一緒に全力でまちづくりに取り組んでいきたいと思いますので、引き続きよろしくお願いします。

熱心にご議論いただいたことに重ねて感謝申し上げ、お礼のご挨拶に代えさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。